

トピックス

2019年に日本に初めて侵入したツマジロクサヨトウ

【はじめに】

ツマジロクサヨトウ（写真1）は、2019年に初めて日本に侵入した害虫であり、広範囲な作物に被害を与えることが知られています。

【ツマジロクサヨトウの日本への飛来】

ツマジロクサヨトウは、南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産のヤガ科の農業害虫で、幼虫（イモムシ）がサトウキビ、トウモロコシ、イネ、豆類、いも類、野菜類等、広い範囲の作物を食害します（写真2）。これまでは南北アメリカ大陸のみで生息していましたが、2016年にアメリカ大陸以外では初めて、サハラ以南のアフリカで確認されました。アフリカでは2017年にツマジロクサヨトウによってトウモロコシに大きな被害が出ています（被害金額の推計が25～63億米ドル（約2,700～6,900億円））。

2018年にはアジアで初めてインドとイエメンで確認され、2019年の1月には中国雲南省で初めて確認されました。その後、中国国内で生息域を急速に拡大し、2019年5月には中国の東海岸まで到達し、6月には台湾への侵入が確認され、7月には日本九州南部への侵入も確認されました。

日本国内においても急速に生息域を拡大しており、8月には九州全域と中国四国地方の一部、さらには関東（茨城県、千葉県、神奈川県）、東北（福島県）で、10月には青森県でも確認されました。

日本で、ツマジロクサヨトウの幼虫はトウモロコシ（飼料用トウモロコシ・スイートコーン）、飼料用ソルガム、サトウキビで見つかっており、幼虫は若い柔らかい葉を好んで食べます。

【今後】

中国南部・台湾より南では通年発生することが予想されることから、今後日本には毎年侵入してくることがほぼ確実です。その際の農業被害の広がりを防ぐために、現在、九州沖縄農業研究センターを中心に、農研機構の各研究機関で日本に侵入したツマジロクサヨトウについての研究を始めています。この研究はイノベーション創出強化研究推進事業（2019年度、農研機構生研支援センター）の支援を受けています。

【生産環境研究領域 秋月 岳】



写真1 ツマジロクサヨトウの雄成虫(上)と雌成虫(下)
(農研機構農業環境変動研究センター所蔵)



写真2 トウモロコシを食害するツマジロクサヨトウ幼虫(左)と食害されたトウモロコシ(右)